



ふたまたせ



■【学校ホームページの「QRコード」です！】
随時ホットな情報を更新しています！



【学校教育目標】“ひたむきで ゆくもりのある さわやかな 二俣瀬っ子の育成”

令和7年度 前期学校評価アンケートのまとめ

保護者・地域の皆様には、前期学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。学校運営協議会委員（地域）・保護者・教職員・児童の評価結果を下記のとおり分析しました。今後の学校運営に生かして参りたいと思います。今後とも学校の教育活動にご支援・ご協力いただきますとともに、学校の取組に対するご意見・ご要望をお気軽にお聞かせください。よろしくお願いします。

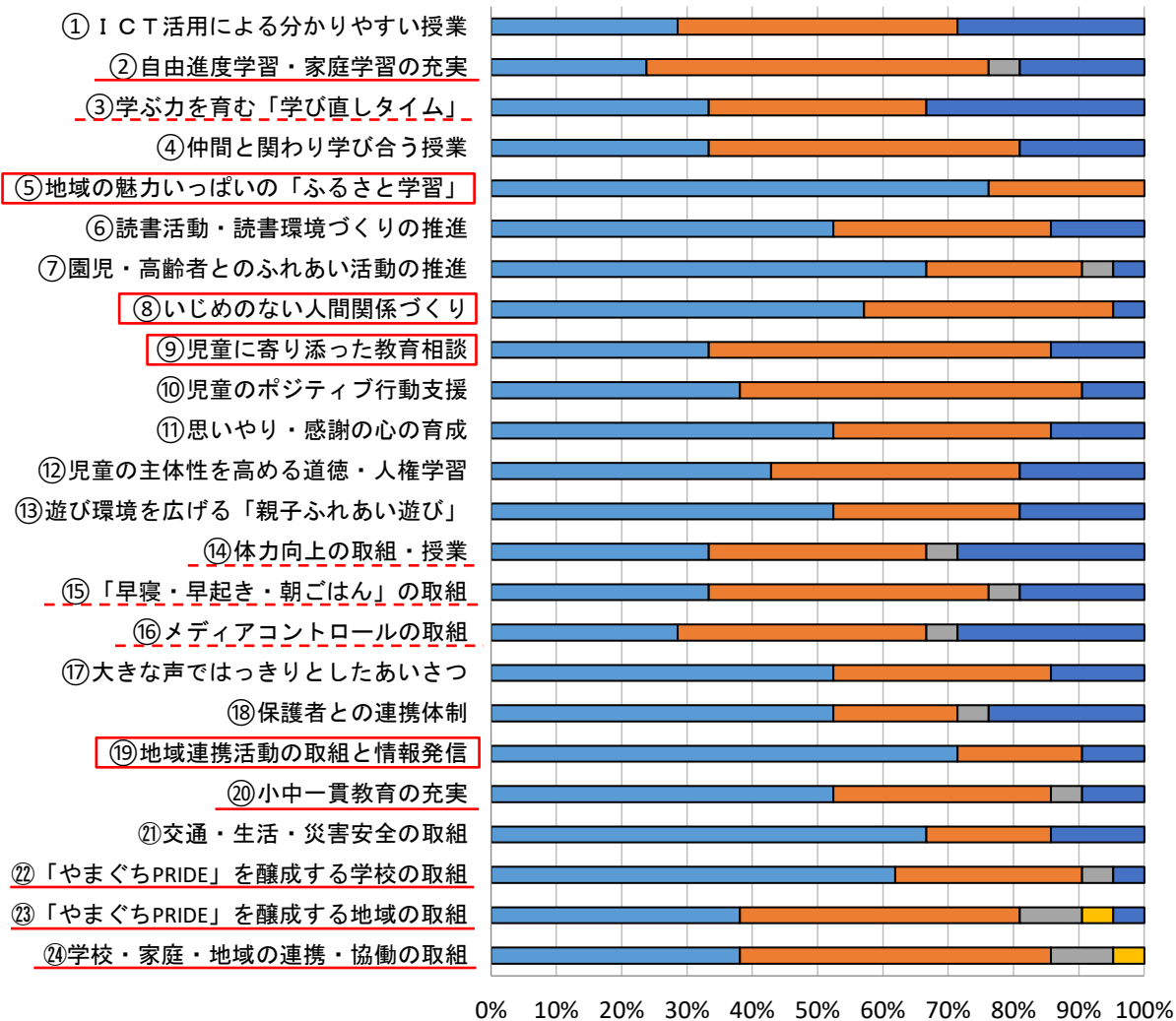
＜グラフの見方について＞

「5：あてはまる 4：だいたいあてはまる 3：あまりあてはまらない 2：あてはまらない 1：わからない」

※評価5及び4を「肯定的評価」、評価3及び2を「否定的評価」としています。

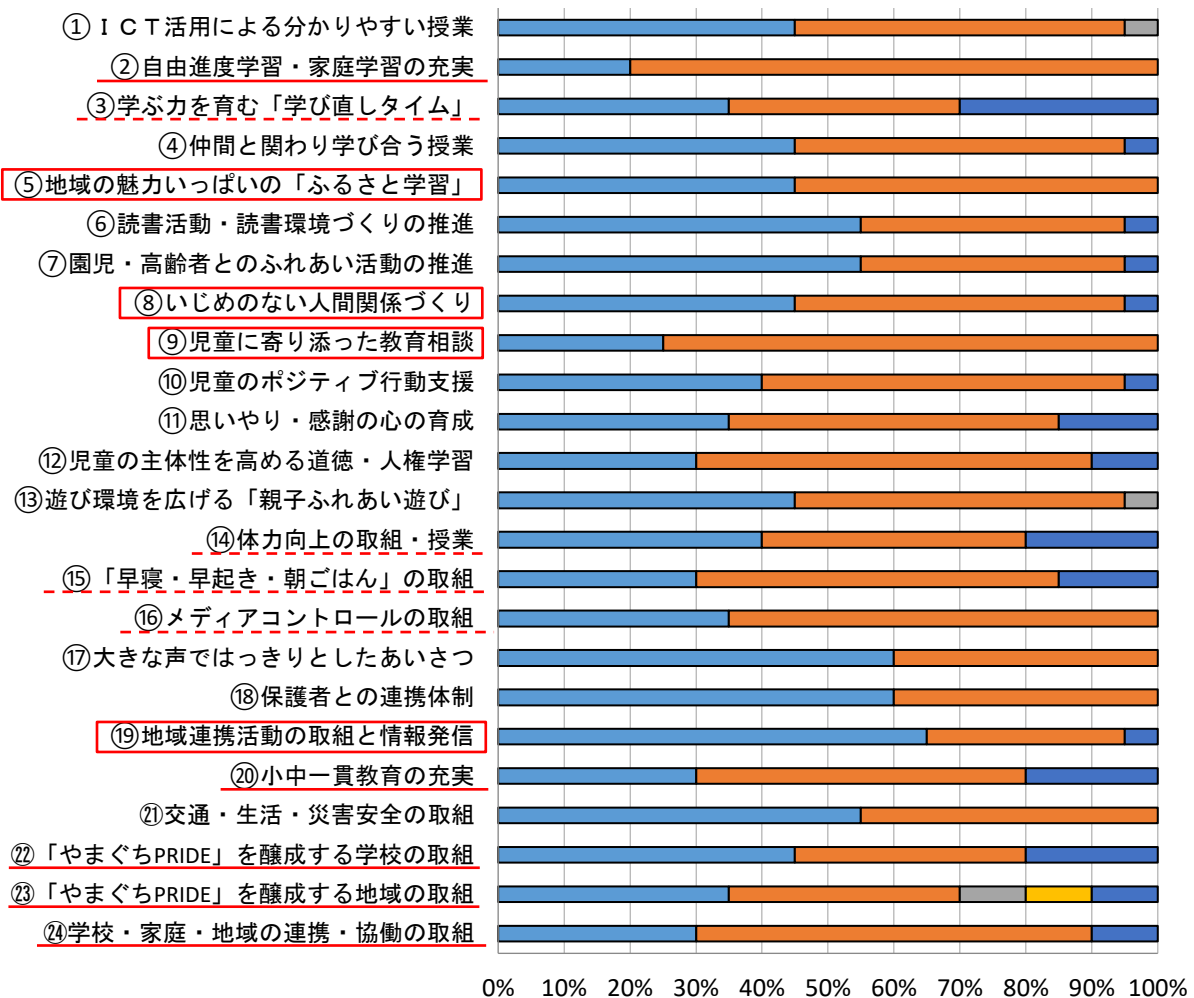
令和7年度 前期（7月末）よりよい学校づくり評価【学校運営協議会委員21名】

☐ あてはまる
 ☐ だいたいあてはまる
 ☐ あまりあてはまらない
 ☐ あてはまらない
 ☐ わからない



令和7年度 前期（7月末）よりよい学校づくり評価【保護者20名】

☐ あてはまる
 ☐ だいたいあてはまる
 ☐ あまりあてはまらない
 ☐ あてはまらない
 ☐ わからない



＜取組の成果が見られる評価結果（囲み枠線）＞

○「⑤地域の魅力いっぱいの『ふるさと学習』」について、地域委員・保護者ともに100%の肯定的評価でした。1・2年生活における野菜の生産・販売活動や園児・高齢者との交流活動、3・4年総合のビオトープ活動、5・6年総合の二俣瀬もりあげ隊の取組の成果といえます。今後さらに、地域とともに児童の思いや願いを生かし、児童が自ら探究し、発信していく「ふるさと学習」を本校の特色にしていきたいと思います。

○「⑧いじめのない人間関係づくり」「⑨児童に寄り添った教育相談」について、両者ともに 85%を超える肯定的評価でした。全教職員が児童一人ひとりに丁寧に関わっている成果だと考えます。いじめ等の問題や教育相談は、迅速で丁寧に対応していくことが求められます。引き続き、保護者の皆様・地域の方々と情報共有を密にしながら、これら問題に真摯に取り組んでいきます。

○「⑨地域連携活動の取組と情報発信」について、両者ともに90%を超える肯定的評価でした。今年度より「まなび・せいかつプロジェクトチーム」の活動に、保護者・地域の皆さんも加わってもらっている成果と言えます。また、その情報をHPだけでなく、保護者インスタでアップしている効果です。ありがとうございます。今後も地域連携活動の仕組みをつくり、広報活動を工夫していきます。

＜取組の課題が見られる評価結果（実線）＞

●「②自由進度学習・家庭学習の充実」は、今年度の重点目標の一つですが、地域委員・保護者ともに約 20%しか「あてはまる」に回答していただけていません。おそらく家庭学習の進め方に問題点があるのでしょう。今後、家庭・地域に自由進度学習をさらに公開しながら、そこで育んだ子どもの主体性を家庭学習につなげ、学びの定着を図っていきます。そこには、家庭・地域のご支援・ご協力が欠かせません。どうぞよろしくお願いいたします。

●「②小中一貫教育の充実」について、「あてはまる」の回答は地域委員が 50%、保護者が 30%と低調であり、ここ数年間の課題と言えます。そこで、今年度より新たに「地区児童生徒会」を立ち上げ、児童生徒主体の地域貢献活動に取り組む予定です。また、「小中一貫ランドデザイン」「学校・地域連携カリキュラム」について合同学校運営協議会を通して見直しを図り、保護者・地域と共有していく必要性を感じています。

●「②③『やまぐち PRIDE』を醸成する学校・地域の取組」「④学校・家庭・地域の連携・協働の取組」については、両者の中で最大 30%の否定的評価でした。「やまぐち PRIDE」とは「ふるさと
の未来をつくる心意気」のことで、保護者・地域にしっかりと周知して
いないので、この結果は仕方ありません。今後、特認校としての
特色ある教育活動を核に、子どもと大人の「やまぐち PRIDE」を
どのように醸成していくか、学校・家庭・地域による一体的な取組
について協議していきたいと考えています。

＜「わからない」の回答が多かった評価結果（破線）＞

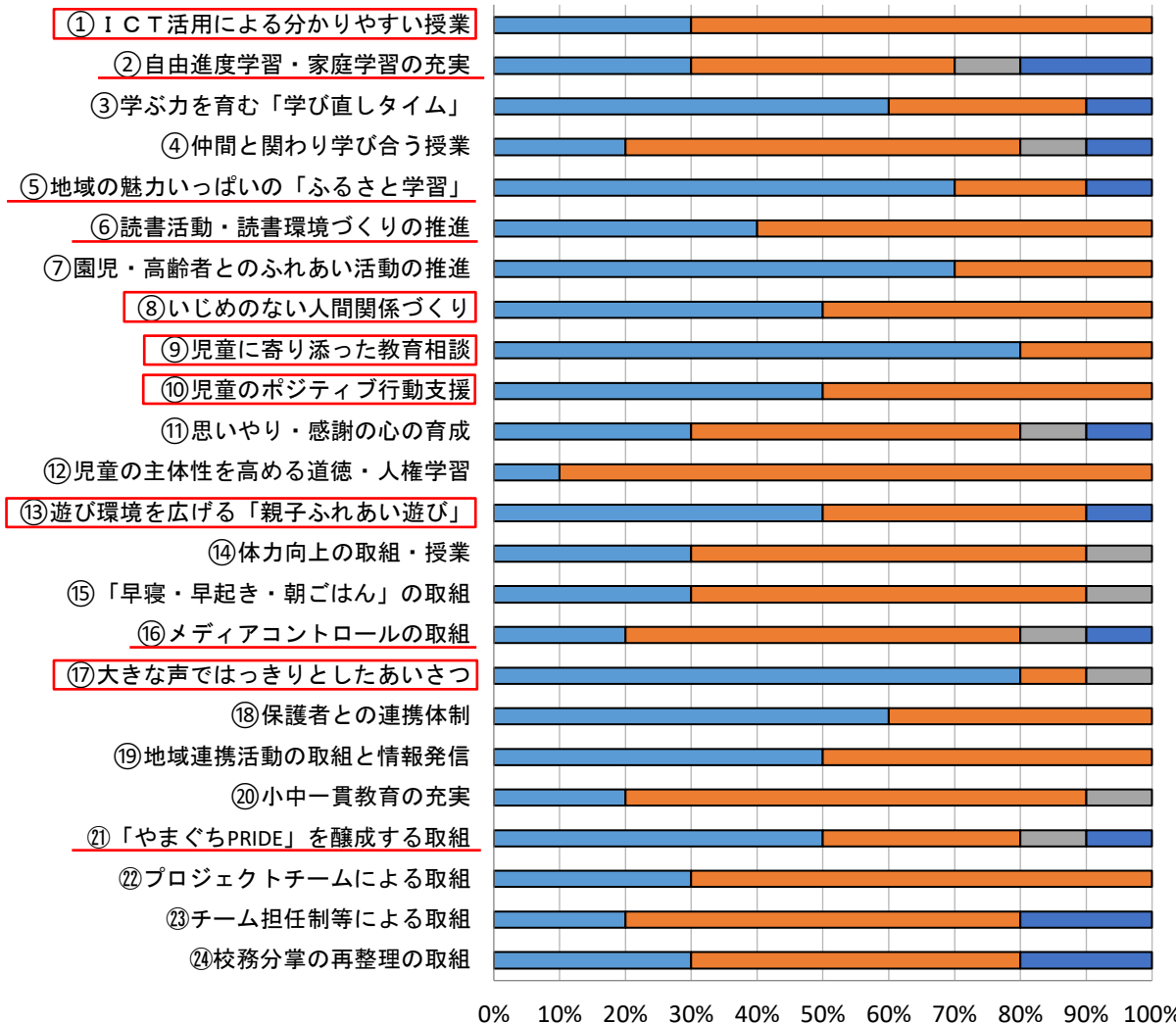
※「わからない」という結果については、学校からの広報活動不足と受け止めます。今後、取組を見える化したり、家庭・地域に参加してもらったりしていきたいと思います。児童に聞くことや家庭・地域で情報交換することも、ぜひ行っていただきたいです。

●「③学力を育む『学び直しタイム』」については、今年度始めた学力向上の取組です。地域のたくさんの「ちよぼう」の皆さんにご協力いただき、児童とのよい関わりもできています。児童の学が意欲の向上にもつながっていますので、しっかりと公開していきます。

●「⑭体力向上の取組・授業」「『早寝・早起き・朝ごはん』の取組」「メディアコントロールの取組」については、それぞれ全校一輪車チャレンジ、生活調査・夏休み朝ごはん作り、メディアコントロール週間チャレンジ等を行っていますが、その検証や次の一手が打てていない状況です。今後、児童・保護者・地域を交えた熟議等を行い、改善に向けた取組に着手していきたいと考えています。

令和7年度 前期（7月末）よりよい学校づくり評価【教職員10名】

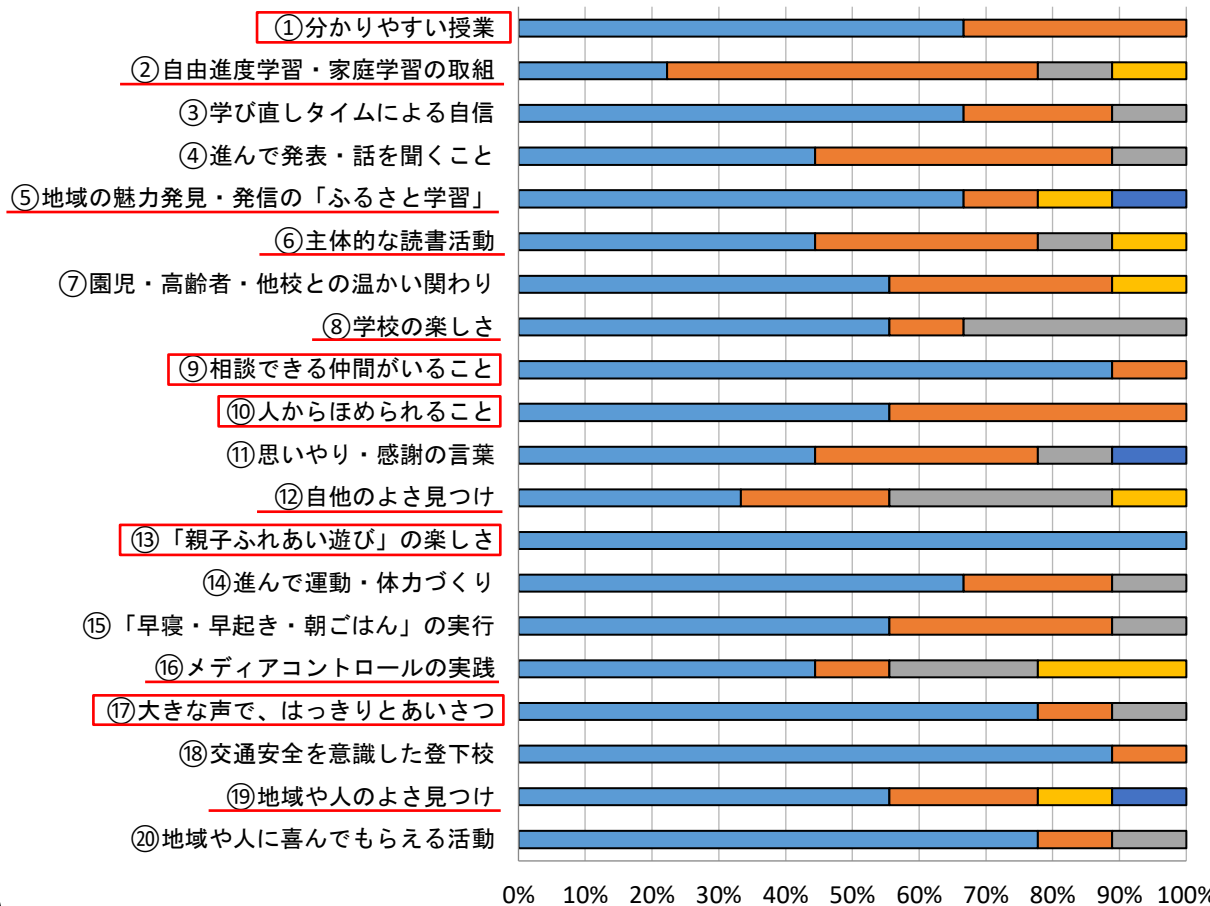
■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

令和7年度 前期（7月末）よりよい学校づくり評価【児童20名】

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

＜取組の成果が見られる評価結果（囲み枠線）＞

○教職員の「①ICT活用による分かりやすい授業」に関する肯定的評価に対応して、児童の「①分かりやすい授業」に関する肯定的評価が高い結果となり、ICT活用による視覚的支援の効果や個に応じた丁寧な学習支援の成果が表れています。さらに授業の中でICTを効果的活用しながら、本校独自の自由進度学習を推進します。皆さんに授業を公開していきたいと思います。

○教職員の「⑧いじめのない人間関係づくり」「⑨児童に寄り添った教育相談」「⑩児童のポジティブ行動支援」に関する肯定的評価の高さに対応して、児童の「⑨相談できる仲間がいること」「⑩人からほめられること」に関する肯定的評価が高い結果となっています。児童一人ひとりの特性に寄り添った教職員の丁寧な関わり、児童のよさを認め合う教職員や地域の価値付けの成果です。今後も児童のポジティブな行動を引き出していきます。

○教職員の「⑬遊び環境を広げる『親子ふれあい遊び』」の評価、児童の「⑬『親子ふれあい遊び』の楽しさ」の評価がともに高い結果となりました。今年度から保護者が企画した取組で、大きな集団で遊ぶ機会の少ない本校児童にとっては貴重な体験となります。この遊びの取組を日常化していく必要性を感じています。

○教職員・児童の「⑰大きな声ではっきりとしたあいさつ」についても高い肯定的評価です。「名前を呼んであいさつ」が学校では定番化してきました。これからは、「いつでも・誰に対しても」が課題となります。特に、地域の皆さんへのあいさつを見直していきたいです。

＜取組の課題が見られる評価結果（実線）＞

●地域・保護者の結果と同様に、教職員・児童の「②自由進度学習・家庭学習」の取組には課題が残ります。自由進度学習において児童の主体性が十分に育まれていないことやその取組が家庭学習につなげられていないことがうかがえます。今後の取組課題として改善をめざします。

●教職員の「⑤地域の魅力いっぱいの『ふるさと学習』」に対する評価の高さに対して、児童の評価はやや低調です。今年度から特認校としての重点目標として、児童の願いを生かし、地域とともにつくる生活・総合の「ふるさと学習」に取り組み始めたばかりです。この評価を受け止めて、児童が本気になり、地域に発信していく生活・総合をめざします。「やまぐちPRIDE」を育むためにも、地域のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

●教職員の「⑥読書活動・読書環境づくりの推進」と児童の「⑥主体的な読書活動」の評価にズレが生じています。学校では、学校司書や読書ボランティアと連携して様々な読書イベントを実施していますが、それが児童の日常的な読書活動につながっていないことを現わしているとも取れます。今後、家庭とも連携しながら「親子読書」等の取組を実施したいと考えています。

●児童の「⑧学校の楽しさ」について、30%以上の否定的評価があったことを深刻に受け止めています。今後、早急に「楽しくない」と感じている原因を聞き取り、児童の思いに寄り添いながら、その解決方法を一緒に考えていきたいと思います。

●「⑯メディアコントロールの取組・実践」についても課題が見られます。教職員では20%、児童では45%以上が否定的評価でした。家庭におけるメディアの使い方の約束が守られていないようです。学校で今一度「安全でルールを守った使い方」について指導しますので、家庭でのルールの徹底をお願いいたします。

●児童の「⑫自他のよさ見つけ」は45%、「⑲地域の人のよさ見つけ」は25%程度が否定的評価となっていることが気掛かりです。このことが教職員の「㉑『やまぐちPRIDE』を醸成する取組」の否定的評価に表れています。ふるさとの未来をつくる心意気を育ていく土台となるのが「自己肯定感」「自己有用感」「地域へのあこがれ・愛着」です。それらを高める取組に今後着手します。

＜自由記述「地域・保護者の皆様からのご意見・ご要望について」＞

- *小規模校のウリとして、ICT活用学習や英語学習（主に英会話）など、より特色が出る教育プログラムができるとよいと思います。
- *自由進度学習では小学校の基礎の土台を丁寧に指導してもらった上で、応用・難問を解く向上心を育てるのはよいと思います。
- *係の仕事で昼休みがなくなるという話を聞き、遊びも大切な学びであるので遊ぶ時間をしっかり確保してほしいと思います。
- *児童数の減少や地域人口の減少と高齢化への傾向が、地域連携活動の取組をますます難しくしているように思えます。
- *地域、保護者、学校、子どもたちがもっと互いを知って、親しくなれる機会が増えるといいなと思います。
- *小・中学校一貫教育の取組があまり見えないので、より積極的に行ってほしいと思います。
- *給食の献立は充実しているので、全校で会食している雰囲気づくりも大切にしてほしいです。
- *今年度は多様な地域連携等の取組があり、こんな1年を6年間過ごせたら最高だなと感じています。
- *本を借りることができる時間が少ないと聞きました。もう少し時間や機会を増やしてあげられたらいいなと思います。



学校の取組を価値付けていただいたり、よりよい取組や活動を提案いただいたりして本当にありがとうございます。このような地域や保護者の皆様からの声が上がってきていることは、学校運営への参画が進んでいる証拠です。こうした姿勢が学校を核とした地域づくりにつながります。先日、「二俣瀬っ子ここから会」を立ち上げ、特認校として「学校・家庭・地域」が一体となり、二俣瀬の魅力いっぱいの教育活動を展開し、広く広報活動を行うことで、児童数の確保に努めながらさらなる二俣瀬小の取組の質の向上を図っていきます。そして、これからも地域に対して積極的に学校施設開放を行い、子どもと大人の学びの場としての学校を推進することで、児童と地域の交流を深める場にしていきたいと思っています。そのために、上記教育活動に関するご意見・ご要望については、「学校・家庭・地域」の連携・協働活動を促進する絶好の契機となります。これから校内で検討すると同時に、育友会全委員会や学校運営協議会等で協議していきます。貴重なご意見をありがとうございました。これからも学校に対するご要望等はいつでも承りますので、お気軽にご相談ください。